

第5次八戸市男女共同参画基本計画骨子案に対する
事前質問・意見一覧表

意見および回答	
Q1	第5次八戸市男女共同参画基本計画骨子案「目指す姿」について
委員	「目指す姿：男女共同参画社会の実現「男女一人ひとりが生き生きと暮らすことができるまち八戸市）」について、基本目標の「2. 誰もが…」 「3. すべての人の人権が…」と2017年の基本計画から表現が変更されており、目指す姿についても「男女一人ひとりが」という箇所について、変更した方が良いのではないのでしょうか。例えば、目指す姿：男女共同参画社会の実現「誰もが生き生きと暮らすことができるまち八戸市」または「すべての人が生き生きと暮らすことができるまち八戸市」可能であれば、以上のように変更することを検討していただきたいと思います。
委員	「男女一人ひとりが生き生きと～」の部分は、“市民がともに”、“個人がともに”等、男女と言う語句を変えてみてはどうか。
A1	<p>八戸市男女共同参画基本条例においては、本市が目指すべき姿として「男女一人ひとりが生き生きと暮らすことができるまち八戸市」と明記しております。</p> <p>基本計画につきましては、基本条例に規定する基本理念に基づき策定されるものであり、これまで一貫して男女間の格差の改善を趣旨として記述しております。目指す姿については、現行案のとおりとさせていただきます。</p> <p>ただし、近年、性的指向・性自認に関すること等を理由とした生きづらさなどが社会問題化しており、本市が目指す男女共同参画の推進を阻害することがあり得ることから、次期基本計画においては、幅広く多様な人々を包摂した課題に取り組む施策が必要だと考えております。このようなことから、施策体系においては「誰もが」「すべての人の」という表現を取り入れております。</p>
Q2	アンケート調査概要について
委員	<p>調査対象についての意見です。今期以降になると思いますが、率直に述べさせていただきます。</p> <p>現在、男女別各500人で年齢階層別に無作為抽出となっています。例えば、年齢別の無作為抽出を若い層に比重を厚くしたらどうでしょうか。10代、20代の回収率からアンケート数を提出していただくことで、若い人の意見が反映し、現状が把握できるのではないのでしょうか。40代、50代、60代、70代の回収率が高いため、若い年代の意見が埋もれてしまいます。DVに対する返答に対してもそうだと思います。若い人の声を上げやすい（わかりやすい）工夫が必要ではないのでしょうか。八戸市の人口が、22万4千人であれば、1000人は0.4%となります。およそ1%に当たる2500人に対するアンケートを取るのはどうでしょうか。</p>

A2	<p>年齢別の無作為抽出により若い層の比重を厚くするというご意見に対しましては、男女共同参画社会の実現のため、あらゆる世代に対して、効果的に施策を展開する必要が有ると考えていることから、本アンケートは、特定の層の比重を厚くすることはせず、全ての世代から意見が聴取できるよう年齢階層ごとに一律の無作為抽出としております。</p> <p>また、若い年代の意見が埋もれてしまうのご意見につきましては、アンケート結果を単純集計のほか、年齢階層ごとのクロス集計を用いて世代ごとの意見の違いを分析することで、施策に反映させることは可能です。若い年代の意見が埋もれてしまうことのないよう、対応して参ります。</p> <p>なお、アンケートのサンプル数については、22万4千人に対し、許容範囲の誤差とデータの信頼度、想定される回収率をもとに1000件としております。</p>
Q3	<p>アンケート調査概要について</p>
委員	<p>回答者のほとんどが、学校教育から離れた世代であり、当事者(現役児童、学生)の声が入らない結果では学校教育の平等感(は)計れないのではないかと。</p>
A3	<p>市民アンケートにおいては、例えば、育児、介護など広範な分野の設問に対する回答が期待できる年齢設定として、対象を18歳以上としております。</p> <p>また、市民全体の一般的な意識調査を目的として、学校教育に限らず、全設問において当事者か否かを問わず回答いただいていることから、学校教育の平等感に関しましても、他の設問と同様に当事者以外の回答も含まれていることを想定したうえで、結果分析を進めて参ります。</p>
Q4	<p>第5次八戸市男女共同参画基本計画骨子案について</p>
委員	<p>全体的な印象 「男女」⇒「誰も」「あらゆる」など男女にこだわらない取組みとなることや平易な標記(例えば「醸成」我々の組織でも良く使いますが、わかりにくい。)となっていることは、良かったと思います。</p> <p>ただ、まだ役所的(促進、推進、増進 同じ役所言葉を使う身で、使い分けはよくわかります、が一般には説明しないとわかりません。GLも使い分けを説明されていました。)な部分があるのは、致し方ないのかもしれませんが。</p>
A4	<p>委員ご指摘の体系図における促進、推進、増進をはじめとした用語の使用については、現行どおりとさせていただきますが、基本計画の中で、わかりやすい表現を用い、必要な部分には用語の解説をして参ります。</p>
Q5	<p>第5次八戸市男女共同参画基本計画骨子案について</p>
委員	<p>第4次の2Ⅱ(1)「女性リーダーの発掘・育成」は、第5次の①②に内包したということかと思いますが、個人的には直接的な表現ではなくても残しておいても良かったと思いました。</p>
A5	<p>女性リーダーの発掘・育成につきましては、キャリアアップの充実により、女性リーダーの育成に繋がるものと考えており、女性リーダーの発掘につきましても女性登用の拡大の施策により達成できることと考えていることから、骨子案のとおり進めたいと考えております。</p>

Q6	<p>第5次八戸市男女共同参画基本計画骨子案について I-(2)-①学校教育における男女共同参画の推進及び第4次八戸市男女共同参画基本計画P15,第3章 I-(2)-①②</p>
委員	<p>施策の概要・2つ目、男女平等を推進する教育内容が充実するよう、教職員を対象～とあるが、児童、生徒またその保護者に対しての意識調査や働き掛けや講座などは行われているか。</p> <p>現在の教育指導課と教職員の2者間で行う一部分的な周知方法と市民アンケートの結果で"男女共同参画を推進する学校教育が浸透している"と結論付けられるか疑問に思う。</p> <p>教育現場での男女共同参画が理解度や進捗状況を把握するためには、当事者である児童・学生の声が欠かせないのではないか。今の子供達はどんな場面でジェンダーを意識したり、違和感や不安を感じているのか。</p> <p>また、その家族も多様化するジェンダーの環境に対して対応に困ったり、不安や疑問を抱いているのではないか。</p> <p>今の子供達が置かれた環境、抱くジェンダー意識、違和感、家族の意見を活かした基盤作りが②の次世代に向けた男女共同参画の理解促進に繋がって行くと考え</p> <p>そして、活動の対象を、より低年齢の幼児から高齢者、障害のある方、その施設関係者、性的マイノリティのある方、家族の方々へ広げ、たくさんの声をくみとって政策に活かして頂きたい。更なる認知、活動が生まれる相互理解の関係の拡充を期待する。</p>
Q7	<p>第5次八戸市男女共同参画基本計画骨子案について 2-II-(3)</p> <p>委員 学校のクラブ活動と町内会、地域企業との接点を増やす取り組みを。私の子が通う学校は校内ボランティアとして参加されている方の人数は少なく、周知もプリント一枚のみだ。広い世代が興味を持てるテーマと地域企業に技術やサービス協力を依頼し開催することで、若い世代と高齢化する町内会、地域企業とで新たなネットワークを構築し、地域活動の活性化、継続化に繋がるのではないか。児童も普段から地域の方々と接する機会が増えれば、災害時お互いを頼れる存在となると考える。</p>
Q8	<p>第5次八戸市男女共同参画基本計画骨子案について 3-III-(1)-① 家庭内暴力防止における低年齢からのジェンダー教育の重要性について</p>

委員	<p>子育てしていく中、小さい頃の発達は月齢により細かく分類され、周りの子供たちと発達具合を比べてしまい、心配になる事も多い。そして子育ての先輩、母親に相談する。決まって、男の子だから手がかかる、女の子だからお喋りが早いと言った話になる。</p> <p>私の子供が通う幼稚園では性別色別のスモックを着て、卒園記念品には男の子はブルー、女の子はピンクの水筒が配られた。記念品はみんな同じ色でもよいのでは？という私の意見は届かなかった。</p> <p>実際、発達の傾向として男女差は存在するかもしれない。しかし、色や傾向で性別のイメージづけをする事は子供たちの教育にふさわしいだろうか。男の子は言葉が遅い傾向にあるため感情を言葉にできず手が出やすかったり、女の子はできる事が多い分、できない事があると泣いてしまう事があるのかもしれない。それらを男の子性格、女の子の性格と括らず、個人の個性と捉え、感情を抑え込むのではなく、低年齢のうちから自信の感情と向き合う習慣やトレーニングをしていく事が大切だと考える。小さいうちから自分の気持ちを伝える、コントロールする方法を徐々にでも身につけていく事が将来のDV防止につながると考える。</p>
Q9	第5次八戸市男女共同参画基本計画骨子案について
委員	<p>八戸市内の小・中学校に誰でも使用できるトイレは設置されているか。設置予定はあるか。避難所としての役割を持つ学校や公共施設。車椅子で介助が必要な方が利用でき、オストメイトの方々、高齢者、乳幼児のオツム交換台を有するだけでもトイレ。設置により低学年は男女共同参画に興味をもつきっかけとなり、行事等で来校者、子供連れの保護者を助け、地域防災の機能向上につながると考える。</p>
A6 ～9	<p>施策による具体的な事業につきましては、委員の御意見を事業担当課と情報共有し、必要に応じて対応して参りたいと考えております。</p>